

2022年9月 教会行事予定表		
曜	午 前	午 後
1 木		キリスト教講座 18:00
2 金	キリスト教講座 (登別教会) 10:00	
3 土	ミサ 10:00 掃除 (太平洋) ・	
4 日	ミサ 9:30 典礼当番 (蘭岳) 9月運営委員会	
5 月		
6 火	OPC 10:00	
7 水	こっとな倶楽部 10:00	
8 木		キリスト教講座 18:00
9 金	キリスト教講座 (登別教会) 10:00	
10 土	ミサ 10:00 掃除 (太平洋) キリスト教講座②11:00	
11 日	集会祭儀9:30 典礼当番 (楽山) 例会日	
12 月		
13 火	OPC 10:00	
14 水	こっとな倶楽部 10:00	
15 木		キリスト教講座 18:00
16 金	キリスト教講座 (登別教会) 10:00	
17 土	ミサ 10:00 掃除 (太平洋)	
18 日	ミサ9:30 典礼当番 (白鳥)	
19 月		
20 火	OPC 10:00	
21 水	こっとな倶楽部 10:00	
22 木		キリスト教講座 18:00
23 金	キリスト教講座 (登別教会) 10:00	
24 土	ミサ 10:00 掃除 (太平洋) キリスト教講座 ②11:00	
25 日	集会祭儀 9:30 典礼当番 (太平洋)	
26 月		
27 火	OPC 10:00	
28 水	こっとな倶楽部 10:00	
29 木		キリスト教講座 18:00
30 金	キリスト教講座 (登別教会) 10:00	



典礼当番の地区表					
		8月	9月	10月	11月
1週	ミサ	太平洋	蘭岳	楽山	白鳥
2週	集会	蘭岳	楽山	白鳥	太平洋
3週	ミサ	楽山	白鳥	太平洋	蘭岳
4週	集会	白鳥	太平洋	蘭岳	楽山
5週	ミサ			白鳥	
	掃除	太平洋	白鳥	楽山	蘭岳

キリスト教講座

・キリスト教講座①
夜の部 (18:00)
登別教会(10:00)
8月中はお休みになります。

・キリスト教講座②
昼の部 (11:00)
8月27日(土)は行います。

2022
8/14

ひとつになるう

カトリック東室蘭教会広報誌 毎月第2日曜発行





祈る二人

テレジア田中真樹子

今から580年以上も前の夏のある日、フィレンツェのサン・マルコ修道院の工房で、数人の修道士たちがテーブルを囲んでいました。フラ・ベノッツォが立ち上がると話し始めました。「北側の34番の僧房だが、今朝フラ・アンジェリコから、我々のグループで描くようにと言われた。構図も、色も我々にまかせてくれるそうだ」。

サン・マルコ修道院では、祈りと黙想の手助けとなるように、修道士たちの僧房、食堂、廊下にキリストの生涯をテーマにした壁画がいくつも描かれていました。画家は修道士のフラ・アンジェリコ。その絵の素晴らしさに、サン・マルコ修道院の工房には国中から絵の得意な修道士たちがあつまって、フラ・アンジェリコの弟子になっていたのです。



フラ・アンジェリコ 受胎告知

フラ・ベノッツォは続けました。「絵の場面はフラ・アンジェリコが決めた。ゲッセマネの園だ。わが主が十字架にかけられる前に『どうかこの杯を私から取りのけてください』と祈った場所だ。ペトロ、ヤコブ、ヨハネは、わが主から「目をさまして祈っていないさ」と言われたが眠ってしまった。その場面に、わが主の言葉にしたがって祈っている人物を加えようというのがフラ・アンジェリコの考えだ。さて、祈っている人物を、誰にしようかとこれから…」。

「聖母マリアでしょう。一番ふさわしいのは」。フラ・ベノッツォの言葉をさえぎるようにして、若い修道士が言いました。「いやいや、少し待って、たしかに聖母はふさわしいとも。でも私には考えがあるのだ。祈る人は二人がいい。レクチオ・ディヴィナ(聖なる読書)と、とりなしの祈り、我らの祈りはこの二つがあるのだから…」。今度は工房で一番年上の修道士が言いました「それなら、ドメニコとフランチェスコはどうだろうか」。いくつも賛成の声があがりました(聖ドミニコはサン・マルコ修道院の所属するドミニコ会の創立者、聖フランシスコはドミニコと同時代の人でした)。けれどもフラ・ベノッツォはゆっくり続けました「祈りの手本としてかきこむのは、わが主とともに生きていた人物にしたいのだ。どうだろう、聖書の中にふさわしい二人の弟子か、兄弟か、をみつけようと思う。みんなもゆっくり考えてみてくれないか」

修道士の一人は聖書の写本工房にでかけて、学者の意見をききました。聖堂にすわって聖書のいろいろな場面を思い出して考える者もいました。ブドウ園やズッキーニ畑を歩き回って思いめぐらす者もいました。そして二週間後、とうとうキリスト信者のお手本になる二人がきました。

フラ・ベノッツォからその二人の名をきくと、フラ・アンジェリコは驚きましたが、「あなたはほんとうによい二人を選んだ」とフラ・ベノッツォの手をしっかりと握りました。

フラ・ベノッツォたちが描いた「ゲッセマネの園」のフレスコ画は、いまでもサン・マルコ修道院(美術館)に行くとみることができます。左上には祈るキリスト。手前左側には眠りこける三人の弟子(左からヤコブ、ヨハネ、ペトロ)。



ゲッセマネの園

そして、右側には、ほんとうはこの場面とは何の関係もないのですが、キリスト信者のお手本としてベタニアのマルタとマリアの姉妹が描かれています。

左側のマリアは聖書を手にして、目を伏せて読んでいます。「実は、古代の修道院では、祈る人は聖書を目の前に開いているのです。そして少しずつ読んでいます。少し読んで、何かを思いめぐらして…。つまり聖書を読むこと自体が祈りでした。聖書を読んでいる時間が、そのまま祈りの時間だったのです」(来住英俊神父)。中世のサン・マルコ修道院でも、やはり、レクチオ・ディヴィナの伝統は受け継がれていたのではないかと思います。右側のマルタは手を合わせて、きりっとした姿勢で祈っています。祈るキリストと対応している姿です。しかもマルタはマリアのほうに視線をむけているので、二人の祈りには結びつきがあることを示しているようです。修道服姿のマリアとはちがって、マルタの服は緑と赤の鮮やかな世俗の服です。そして苦しむキリストのため、苦しむ人のために、静かに力強く祈っています。

この僧房は、修道院の図書館への訪問客用の宿坊だったということですが、ここに泊まったお客は、壁画をみて驚いたことでしょう。まず、手本となるべき人物として女性が描かれていることに。そして、マリアはまだわかるとしても、マルタは祈りの人だったのでしょうか、と。

ベタニア村のことを言い出したのは、朝露にぬれたズッキーニの畑を歩き回っていたフラ・ジョバンニでした。キリストがエルサレムに来たとき、エルサレムではなく、どうも、わざわざ郊外のベタニア村に泊まっているようだということを思い出したのです。きっとキリストは、マルタとマリアの家によく泊まっていたのでしょう。ズッキーニ畑で収穫を手伝いながら、フラ・ジョバンニの心には、祈る二人の姿が浮かんできました…。そしてフラ・ベノッツォも仲間たちも皆、フラ・ジョバンニに賛成したのです。

イエスは、マルタとその姉妹とラザロとを愛しておられた、とヨハネによる福音書(11章5節)に書いてあります。「この先の箇所を読んでごらん下さい」とサン・マルコ修道院の修道士たちはお客に勧めたでしょう。ヨハネ11章を読むと、ルカ10章の例の「マルタとマリア」の話でキリスト

をもてなそうとせつせと働き、不満を募らせていたマルタのことが、もっとよく分かるようになりますよ。そしてこの絵のマルタの姿は、聖書のマルタにぴったりだと私たちは思っているのです、と。



(あとがき)

1. この34番の僧房のフレスコ画は、フラ・アンジェリコの真筆ではなく、ベノッツォ・ゴッツオリを中心とした弟子たちが制作を担ったようです。たしかに、左上のキリストの姿が窮屈そうなあたりなどフラ・アンジェリコらしくない、のかもしれない。なおベノッツォは、フラ・アンジェリコの弟子ではありましたが、修道士ではなかったようですが、このお話では修道士(フラ)ということにいたしました。

2. レクチオ・ディヴィナについては来住英俊著の小さな本『目からウロコ 聖書の読み方 レクチオ・ディヴィナ入門』(女子パウロ会)が大いに参考になりました。というより、この本を読んで、マリアが聖書を読んでいる意味が分かりました。来住神父の「目からウロコ」シリーズには『とりなしの祈り入門』という本もあります。

3. この「ゲッセマネの園」のフレスコ画を私をはじめで知ったのはもう何年も前のことで、この絵を描いた画家は、どこからマルタとマリアを入れる着想を得たのだろうか、ずっと不思議に思っていました。画の謎が少し解けたような気がして、全くの想像ですが、このような「お話」にしてみました。

(テレジア田中真樹子)

2022年度第4回運営委員会 議事録

2022年8月7日(日)10:40~11:50

議事録1. は、開催日時は表題のとおりです。議事録3. は出席者名で省略します。

3. 報告:

3.1, 8.9.10月の予定

8月 7日 (日)	年間第十九主日、ミサ(太平洋地区典礼当番)、ミサ後8月の運営委員会
8月14日 (日)	年間第二十主日、集会祭儀(蘭岳地区典礼当番)、例会日、共同墓参
8月15日 (月)	聖母被昇天祭のミサ、午後6時
8月21日 (日)	年間第二十一主日、ミサ(楽山地区典礼当番)
8月28日 (日)	年間第二十二主日、集会祭儀(白鳥地区典礼当番)
9月 4日 (日)	年間第二十三主日、ミサ(蘭岳地区典礼当番)、ミサ後9月の運営委員会

9月11日 (日)	年間第二十四主日、集会祭儀(楽山地区典礼当番)、例会日
9月18日 (日)	年間第二十五主日、ミサ(白鳥地区典礼当番)
9月25日 (日)	年間第二十六主日、集会祭儀(太平洋地区典礼当番)
10月 2日 (日)	年間第二十七主日、ミサ(楽山地区典礼当番)、ミサ後7月の運営委員会
10月 9日 (日)	年間第二十八主日、集会祭儀(白鳥地区典礼当番)、例会日
10月16日 (日)	年間第二十九主日、ミサ(太平洋地区典礼当番)
10月23日 (日)	年間第三十主日、集会祭儀(蘭岳地区典礼当番)
10月30日 (日)	年間第三十一主日、ミサ(白鳥地区典礼当番)、ブロック会議(登別)

3.2 ブロック会議報告(7/31)

- ・祈りと両神父様の挨拶の後、報告事項
どの教会もミサ集会祭儀のほか教会としての行事は自粛中
- ・宣司評(6/25)報告
自己紹介、シノドス関連報告、運営委員の選出など(議事録参照)
- ・議事
カトリック正義と平和活動への参加依頼(養島神父から):世話人、伊達教会渡辺氏
司教区からのコロナ感染防止対策への対応状況
聖歌の歌唱なし、集会・会議は感染対策を実施して開催、食事を伴う行事自粛など
- ・次回ブロック会議:10/30, 13:30、登別教会

3.3 財務報告

別添資料参照。特に問題なし。

3.4 教区宣司評の報告

宣司評委員、山田淳さんに、議事録の配布をお願いした。質問があれば直接山田淳さんをお願いすることとした。

4. 議事:

4.1 教会の門柱他について(資料参照)

櫻庭さんから資料に基づき説明があり、ホールの壁の十字架と門柱の大きさも含め、新しい見積りで契約することとした。工事費は45万円+消費税。

4.2 ざくばらんの会について

8月21日のミサ後にシノドス纏め等を題材に話し合いをすることとした。

4.3 秋の教会内外の清掃について

9月第四週(9/24)に予定する。カラス対策としての伐採も含め外回りの整理と教会内の大掃除も予定する。今後は以前のように月一回のミニ大掃除を第四主日に行うこととした。

4.4 地区割の変更について

現在4地区で運営しているが、各地区の信徒数のバランスや活動できる信徒の高齢化により、特に教会の掃除当番が地区によっては困難になってきているので、地区割の変更が必要かどうか検討したが、Sr.の支援も受けて当分地区割は変更しないこととした。

4.5 8月からのミサ、集会祭儀の典礼当番について(確認) 4ページの表をご覧ください

4.6 その他

・聖堂への空気清浄機(Air dog)の導入について

コロナ感染防止対策として換気的重要性が強調されています。当教会でも換気に十分な注意を払っておりますが、対策は換気口の解放であり、冬季の防寒対策への課題もあります。そこで最近その有効性が注目されている空気清浄機(Airdog)の導入を検討したい。検討の結果、扱い業者などを調べ詳細を検討することとした(担当:松岡氏)

・教会内土足解放について:神父様から提案があり、実施の可能性について業者(協和ハウス)に相談することとした。

・神父様から教会駐車場の舗装の損傷への対応が提案され、舗装修理用の資材の情報を調べることとした(担当:高科氏)

・玄関の雨の吹込みの問題について提案があり、調査することとした。玄関戸の隙間へのパッキンの設置など。

5. ライヤ神父の予定

8/21~8/26	苫小牧メリノールハウス	8/29	司祭月例会、勝谷司教様霊名の祝い
8/30	司祭評議会		
9/13	北海道カトリック学園園長会議		

6. ミサ・集会祭儀の予定

8/7	ライヤ師	8/14	集会	8/21	ライヤ師	8/28	集会
9/4	ライヤ師	9/11	集会	9/18	ライヤ師	9/25	集会